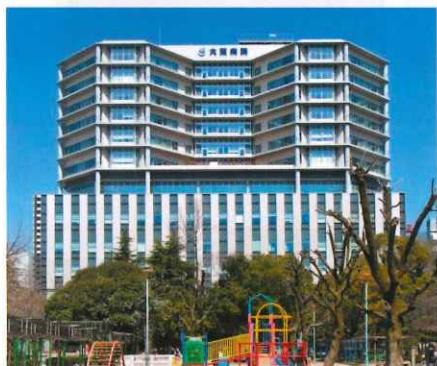


私たちのPurpose(存在意義・社会への約束)は 「より最適な医療と温かいこころで“あなた”と“地域”を支えます」

独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院(大阪市福島区) 病院長 西田 俊朗(しろう)



JCHO大阪病院の基は、1952年に厚生年金保険法に基づいて設立された大阪厚生年金病院です。2014年に、厚生團・全社連・船保会加盟の病院が統合したJCHO(独立行政法人地域医療機能推進機構)57病院の一院となりました。

JCHO大阪病院の西田病院長にお話を伺いました。

——2020年にJCHO大阪病院の病院長として赴任される前は、国立がん研究センターの病院長をされておられたのですね。

国立がん研究センター東病院(千葉県柏市)で2年8ヶ月、同センター中央病院(東京都中央区築地)で4年、病院長をしていました。その前は大阪警察病院で副院長を務めていました。「公」という言葉について深く考えようになつたのは、国立がん研究センターに行つてからです。厚労省直下の病院でしたので「公」ということを意識しました。国立がん研究センターは研究開発と国の施策を実施する法律でしたので、そのためにはデータが必要で、データを出せる組織づくりにも

経営的に厳しいことは聞いていました。しかもコロナです。何が根本的な問題なのか、1年間見ました。経営改善、労務改善、教育・研究などしなければならないことが色々ありました。それ以前にあまり職員が挨拶しない様な病院でした。決して悪気ではなく、個々バラバラの状態でした。また、仕事に対する職員が異なる価値観を持ち、違った方向を向いて仕事をしていました。

赴任時、新型コロナのパンデミックの中で危機管理が求められました。まず病院のガバナンスを変えました。そして職員のベクトルを揃えるために、「この病院の存在意義は何か、どんな病院に医療者何を社会に約束し、どこに向かうのか」が、皆で考え、取り組み、進化するのが大切だと思います。

ビジョンについては、必ず数値で表すようにと条件を付けました。シーズンIIのVISION for 2030は具体的には、「平均稼働病床数450床」「救急搬送台数5500台」「職員満足度10%UP」となっています。

無論このとおりに行くとは限りませんが、皆で考え、取り組み、進化するのが大切だと思います。

職員の方向性が同じになつてきたので、多少は経営状態が改善されてきました。本部でも理解してくれましたので、Davinci Xiを購入したり、最新の電子カルテを導入したり、脊椎のナビゲーションも入れたりすることができます。

パーカスを考えるにあたり、職員が主体にかかり、患者さん・ご家族・地域の住民・医療関係者等から集めた数多くの意見を基に、現状を分析し、言葉を作つては切り、重ねては剥しを繰り返し、紡ぎ編み出していきました。そして、最後の意見集約を職員全員で行いついに2023年3月1日にJCHO大阪のパーカスが完成しました。私達のパーカスは「より最適な

尽力しました。がん対策をはじめ医療政策についても患者さんのためにどういった医療をどの様に提供すると良くなるのか。この11年位考え続けてきました。

JCHO Osaka our Purposeを実現するためのMission

Purpose完成!

VisionそしてCredo

——大阪病院ではどのような変革か

——大阪病院ではどのように変革か

実現するためのMission

VisionそしてCredo

——大阪病院ではどのような変革か

——大阪病院ではどのように変革か

実現するためのMission